

## 私の仕事

私の専門は「家族看護学」という新しい学問領域です。従来、医療者は患者さんを中心とし、家族を背景因子と捉えていました。しかし、たとえばお子さんが慢性疾患や障害を持つ場合、その家族はいつ闇が明けるか分からない状況が長期間続き、生活をコーディネートする力が低下してしまいます。そうした家族を1単位の看護の対象とみなして研究するのが家族看護学です。具体的には、日本の文化的背景に沿った「家族



エンパワメントモデル」を作成し、障害児を持つご家族の生活実態を調べて国際データと比較したり、障害児を在宅でみるライフプロセスを明らかにしたりしています。もう一つ、大学教員として学生の多様な

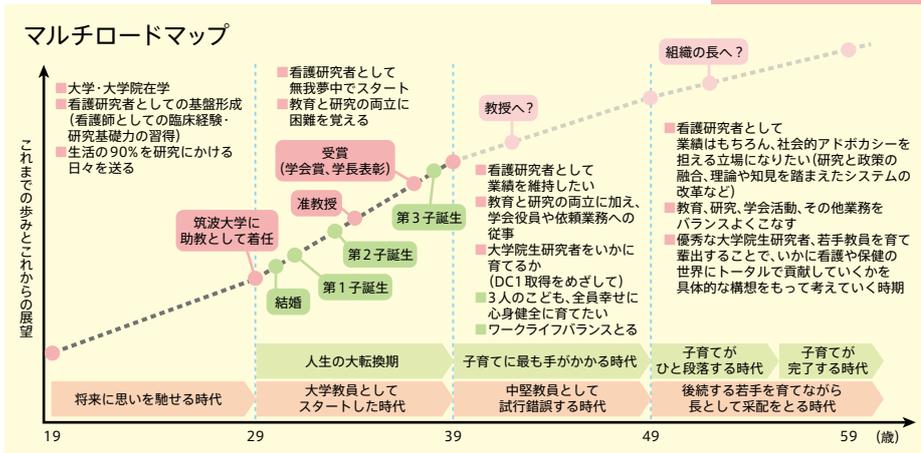
夢を実現するため、私のありうる限りのリソースを活用して学生と日々接しています。研究は決して楽しいばかりの仕事ではありませんが、教育は非常に楽しい仕事です。

## 私の時間

### 家では子どもが最優先

家に帰ると完全に子ども中心のモードに切り替えます。「あなたたちが一番大切なよ」というオーラを出し、メールチェック一つでも仕事の姿は子どもたちに見せません。土日は習い事に通わせていますが、その合間に、子どもたちのリクエストに応じて「お菓子作り」や「鉄棒の練習」「トランプ遊び」など童心に帰って一緒に楽しめます。こうして親子一緒に時間を大切にしています。

子育てが一段落するのは私が50歳の頃。そこから先は、夜中まで大学院生と研究談義に花を咲かせて語れるような教員になりたいと、今から楽しみにしています。



## 私のワークライフバランス

筑波大学に助教として着任後は、看護研究者として無我夢中で歩み始め、そこに結婚や出産が重なり、人生の大転換期を迎えました。第1子が心臓に先天的な疾患があり、1歳10カ月で手術。一番苦しい時期でしたが、職場や家族の助けを借りて何とか乗り切り、「私が働けるのは、子どもたちが健康であってこそ」という思いを強くしました。

昨年第3子を出産し、成人するまでは子育てが親としての最重要マターです。産休後に戻る職場があったのは大きな励みであり、産休中も論文を読んだり、大学院生と連絡を取り合ったりしていました。復帰後は今まで通り、大学にいる間はなりふり構わず猪突猛進し、その日すべき仕事に全力で取り組んでいます。



筑波大学 医学医療系 准教授

## 涌水 理恵さん

Rie Wakimizu

東京大学医学部を卒業後、同大学院医学系研究科で博士(保健学)を取得。看護師として臨床経験を積んだ後、筑波大学助教に着任。2012年より現職。